

令和元年度（第9回）明専スクール

明専会副会長・明専スクール校長 鶴田 隆治（機54、



今年度のスケールの特色から

今年度のカリキュラムは、これまでの8年間で築かれた実績を基に、下に示す内容で実施しました。

9回目となる令和元年度の明專スクールを10月12日(土)と11月2日(土)・3日(日)に開催し、全カリキュラムを無事に終了することができます。また、だきました尾家学長、ならびに高原会長、そしてご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。また、

デザインの山本結代様（電計H6）を迎えて、「企業における実践I」を担当いたしました。自分を知る（軸をもつ）ことの大切さと、気付きと行動に結びつけることの重要性について講演いただき、学生からはものごとの考え方や捉え方に新たな気づきを覚え、とても参考になつたとの声が聞こえました。

普討議の全てに参加された40名の学生諸君の奮闘を讃えたいと思います。今回、この機会をいただきましたので、今年度の明專スクールを簡単に紹介するとともに、スクールの運営状況について紹介させていただき

1日目		[開催日] 10月12日(土)	
講座内容		講師	
明治～九州工大建学の歴史	元九州工大	西尾 一政 (加 S47)	
企業とは	野村総合研究所	浅辺 公彦 (情知 H4)	
企業における実践I	ソニー LSI デザイン	山本 結代 (電計 H6)	
企業における実践II	トヨタ自動車九州	吉田 誠治 (制 S56)	
グループ討議の課題研究	TOTO	植木 幹 (電 H1)	
2～3日目		[開催日] 11月2・3日(土・日)	
講座内容		講師	
企業における知的財産	安川電機	石橋 一郎 (制 S56)	
報告書作成の実践	TOTO	植木 幹 (電 H1)	
グループ討議 実践と発表		2日目 中間報告	3日目 最終報告
チユーダー			
TOTO	植木 幹 (電 H1)	加納廣人 (電 H24)	木村昂史 (M 生生 H25)
日本製鉄	山東真人 (設機 H12)	中尾政也 (機字 H25)	
安川電機	羽野修一 (電 B4)	吉田達哉 (物材 H06)	大谷洋平 (電電 H12)
本田技研	井浦昭二 (二輪 H3)	久恒正希 (電子 H4)	
日立リヨーションズ	内藤憲治 (電 S61)	野村総合研究所	浅辺公彦 (情知 H4)
小野田直也 (情知 H12)			

令和元年度の明專スクールプログラム

り、グループ討議の課題に関連した
講義を行う工夫をされており、第1
日目の講座「企業とは」において、野
村総合研究所の浅辺公彦氏（情知日
本）に「企業理念とイノベーション・
グループ討議に向けてのメッセージ」
との副題で、課題への導入を行つ
ていただきました。グループ討議は
今年も学生の印象に残る体験になつ
たようで、最終報告会での学生の表
情には達成感が溢れていました。

スクールの記事が1・2月号と3・4月号の「交流のひろば」に連載されますので、内容や学生の感想等についてはご存じかと思います。しかし、どのように企画・運営されていいのかについては、ご存じの方は少ないのではないかでしょう。また、「明専スクール」を「明專塾」と混同している方も残念ながら多くおられますが。この機会に、明専スクールが、就職が決まった学生を対象として、

は、今年より西尾一政（加47）前明
専スクール校長を分会長とし、ス
クールの実行リーダーとしてTOT
Oの植木幹氏（電H1）、大学から
は学生担当の赤星保浩副学長、工学
研究院の中尾基副研究院長、さらに
3キャンパスのキャリアセンター長
そして明専会の学生支援育成部会メ
ンバー（氏名略）を含め、総勢15人

明専スクールの運営について

明専会報をよくご覧の方は、明専

ほどです。例年1月にまず反省会を行い、4月に次の計画立案、6月に詳細スケジュールと学生募集方法、そして9月に募集結果を受けて受講者のグループ分け、スクール実施前の最終確認を行うという入念な年間活動を、休日を返上して行っています。その甲斐あって、参加学生の評価は非常に高く、ほぼ全ての学生が参加して良かったと言っています。また最近では、北九州地区に就職した先輩修了生が、グループ討議にチユーターとして加わったり、懇親会に参加して学生に自らの体験を伝えたりと、交流が深まっています。彼らの素晴らしい姿から明専ピーチと、その頼もしい姿から明専スクールが果たしてきた役割を感じさせてくれる瞬間です。

課題は学生募集

ただ一つ、非常に大きな課題があります。それは学生募集です。学内に広く募集する形が基本ですが、特に就職指導を担当された先生からの推薦を重視しており、各キャンパスのキャリアセンターにその取りまとめをお願いしています。モチベー

ションの高い積極的な学生にスクールに入つて欲しいという気持ちからです。実際には、3日間のカリキュラムにも関わらず、自己都合で欠席する学生や、蓋を開けてみれば学会や他の行事とバッティングしているなど、学生のみならず、先生方の認識も不足している感があります。

下に分会メンバーである白土竜一教授（電59）に作成いただいた今回の学生募集パンフレットの一部を紹介します。わかりやすく、スクールの魅力が伝わるよう工夫を重ねています。また、明専会のホームページにも明専スクールを実施したことを掲載していただきました。これらの活動を通じて広報を強化するとともに、今年の修了生が研究室の後輩にして研究室の先生に明専スクールの魅力を伝えてくれることを期待しているところです。

最後に、第9期生の今後の活躍に思います。来年は、いよいよ10周年！

（九州工業大学工学研究院

機械知能工学研究系教授）

出張報告書の指導はとても役立つと評判です

1日目に受講したことを出張報告書にします。期限内に、各グループのチユーターOBに提出。即、赤ペンが入り、書き直しに。何度もやり取りするうちに、企業の視点を理解。さらに、2日目、講義のフィードバックで完全マスター。

明専スクールって何ですか

企業内定が決まった修士2年生と学部4年生を対象にした入社前教育です。戸畠、飯塚、若松キャンパスに対して42名の学生を募集。入社前に企業について深く知ることで、入社同期を一步リードできます。

2～3日目に、チームメートとの議論が始まる。決められた時間内に、皆が意見を出し合い、より良いものにまとめ、資料を仕上げ発表する。参加者は、グループ活動における意見の伝え方・マネジメント・リーダーシップ等活性化のポイントを実践で学修。

毎年、旬の話題を講座1日目に提供。最後にグループ討議のテーマが提示される。そのテーマは「今一度企業を考える」、「企業とは何か」や「入社後の自分の役割」など。6～7人の6チームが、OBの指導のもと20日あまりの調査・分析期間の役割を決める。

明専スクール 2～3日目 成長した自分に出会う

1. グループ討議 2. 想観会（2日目） 3. グループ討議発表会 4. 受講生決意表明と修了証授与 5. 西尾明専スクール校長による語め

明専スクール 1日目 仲間に出会う

現在、入社1年目、マクセル㈱で、生き生きとご活躍の佐藤くるみさん（電子コH31）の明専スクール体験にスポットをあててみました。

1. 公募説明会 2. 明専スクール説明会 3. 野村総合研究所浅辺部長の講演 4. 事務規則に関する質問と回答 5. グループ討議のための作業分担を決めていました。

講座のようす

1. 尾家学長挨拶 2. 受講生自己紹介 3. 企業とは 深澤氏講演 4. グループ討議準備 5. 慶祝会（1日目）

学生募集のパンフレットの一部から

明専会報 2020.1 ◆2

26